

ロックウェル推薦図書 2009年3月

『ライク・ア・ローリングストーン』俳句  
少年漂流記・今井聖

今月は「俳句」の話です。

林檎投ぐ男の中の少年へ 正木ゆう子

※りんごなく(りんごを投げる)  
男はいくつになっても少年の部分の内を抱えて  
いて、そんな男というものに対する理解と共感を鮮  
やかに表現してくれる正木ゆう子さんが私は大好  
きなのです。

久しぶりに日曜日に休んだ昨年12月21日の朝、  
テレビで俳句教室を見ていました。その日は運よく  
講師が正木さんだったので。



ゲストが登場するとコーヒーを吹き  
出しそうになりました。「近頃は、やく  
ざも俳句をやるのか！」正木ゆう子さ  
んが親しそうに話している相手は菅原  
文太に似た、かなりの強面<sup>こおもて</sup>で、それが  
今井聖さんでした。聞けば、高校の先生もしている  
とのこと。ゲストの句が紹介されると、

フィルム<sup>フィルム</sup>の傷の雨降る銀河かな 今井聖

「そうだな。昔の映画は傷だらけだったな。」  
と、京都の場末の映画館で古い映画の六本立てを一  
日ばかりで見た自分の学生時代を懐かしみました。  
俳句とともに歩んだ今井さんの青春記が出版さ  
れると聞き、発売と同時に購入して、今回ご紹介す  
るのが『ライク・ア・ローリングストーン』俳句少

年漂流記・』です。

超簡略俳句史

平安の王朝歌人たちが現地、現物を見ないで頭の中  
で和歌を詠んだのに対し、江戸時代の松尾芭蕉は  
自分の足で旅し、自分の目で見たことをもとにして  
俳諧を確立しました。明治に入って正岡子規が、平  
安歌人を激しく批判し、俳諧を俳句と名づけて、そ  
の本質を「写生」に求めました。

高浜<sup>きやう</sup>虚子<sup>きよこ</sup>がそれを「客観写生・花鳥諷詠」と定式  
化して、雑誌『ホトトギス』を通して全国に広め、  
その流れは今でも主流派です。



ロー漂  
ア・ス少  
ク・グ句  
イン・俳・聖  
ラン・記・せい  
「一」流・今井  
流・記・波  
今・井・書  
岩・波・店  
2,205円 (税込)

虚子の弟子の水原秋桜子らは雑誌『馬酔木』を舞  
台に新興俳句運動をおこし、そこから加藤<sup>しゅうそん</sup>楸邨<sup>しゅうそん</sup>など  
「人間探求派」も生まれました。今井さん(や正木  
さん)は「探求派」の流れをくみ、現代的な感性を、  
詩や音楽などの他の表現手段ではなく、俳句で表現  
しようとしています。

現在は各派お互いの作風にあまり干渉せずおだ  
やかにやっている中で、今井さんはホトトギス系伝  
統俳句批判の急先鋒のようです。

自信と不安の青春記

前置きが長くなりました。今井少年は中2のとき  
学習雑誌に応募した俳句が入選して万年筆をゲッ

ト。誕生日が芭蕉の命日でもあったので、われこそ  
俳句の天才と信じて、俳句を作り続けます。

進学校の米子東高校に進むも、入学当初は中位だ  
った成績はやがて底辺へ。北大卒で公務員の父から  
国立大医学部に進むよう厳命<sup>せつな</sup>されても、あえなく浪  
人。京都の予備校で毎日を刹那的に過<sup>すご</sup>します。

岩波がつけた帯には「抱腹絶倒70年代青春記」  
とありますが、私は読んでいてつらくなりました。

二浪してやっと私立に一校だけ受かった今井さ  
んは、納得しない父に、泣きながら頼んで入学金を  
出してもらいます。なまいきで、うぬぼれていな  
がら、情けない姿をさらさなければならぬのです。

才能は本物に

東京の大学進学後は、社会人になってからも、波  
乱万丈、事件は多発しますが、順調です。

本書はこれから各所で紹介され、「俳句があつた  
から成長できた」式の解説がなされると予想されま  
すが、私にはそうは思えません。高校・浪人時代の  
不安ですさんだ生活と大学入学後の進歩は対照的  
です。少年(高校)時代すでに直観<sup>ちくかん</sup>していたことを理  
論的にも実作面でも形にしていきました。大学に入  
れたから俳句の才能を伸ばすことができたのです。

あとがき

今回は「おじさんの中の少年」について書かれた  
本を紹介しました。「おばさんの中の少女」も当然  
存在するわけですが、それはまた別の機会に…。

ロックウェル新大駅前教室 長谷川玲